

高齢者居住環境の分析と対策に関する研究

—中日間の比較検討も含めて—

久木ゼミ 李 迎新

1. 卒論の背景と目的

- ・中国においても、日本においても高齢化は非常に大きな社会問題である。
- ・この卒論では、両国における高齢化の現状を踏まえ、住居環境が抱える課題について考えてみたい。
- ・高齢者が、安全に暮らせる住居の在り方を明らかにする事が目的である。

2. 方法

- ・中国と日本における高齢化構造の現状分析。(中国と日本の人口ピラミッド参照)
- ・将来予測より高齢化社会における問題点を把握。
- ・両国でのアンケート調査を通じて住居環境に関する課題を抽出。
- ・アンケート結果より課題解決に向けた対策案を提示。

3. 高齢者居住空間におけるアンケート調査

- ・対象者の選定
 - (日本) 65歳以上の高齢者 32名(平均年齢 75.2歳)
東京都東部に位置するK区在住
 - (中国) 62歳以上の高齢者 40名(平均年齢 72.1歳)
蘭州市の甘肅省慈善總會の童鶴扶養院
- ・実施期間
 - (日本) 2008年6月～2008年9月 面接時間 一人当たり 3～20分
 - (中国) 2008年12月13日 面接時間 一人当たり 10～20分
- ・留意事項
 - (両国) 個人情報保護に関しての配慮

4. アンケート調査結果のまとめ

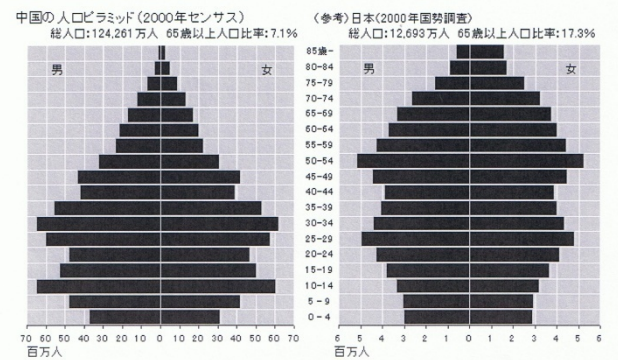
【日本】
高齢者は何らかの疾患を持つ率が高く、高齢者住居を考える際の重要課題である。住居の移転や改築などは、経済的負担、環境の変化への対応不安などから困難。在宅事故の頻度は高く、最低限、**転倒予防策**を望む傾向が強い。高齢であるが故に、**地震や災害に対する住居構造の不安**も見逃せない。

【中国】
対象老人ホームの入居高齢者は、一定の経済能力(退職金など)がある富裕層。施設自体の環境も優美ではなく、食事や栄養のバランスも悪い為、不満も多い。介護職員不足の指摘も多く、**サービスに対する改善**も望まれる。伝統的思想の影響もあるが、**各界の人士による訪問回数**についての要望が特徴的。

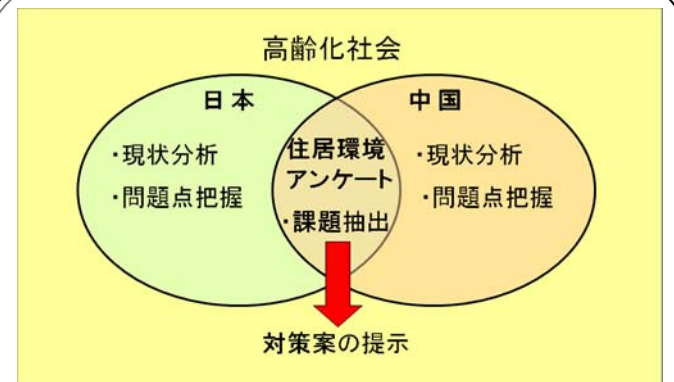
5. 高齢者が望む住居環境を作る上での対策

- 【日本】
- ①新築住宅のバリアフリー化のみならず、**既存住宅でのバリアフリー化**推進。
 - ②介護保険に係る**住宅改修費の一部を支給**するサービスを設ける。
 - ③地方自治体の助成制度や住宅金融公庫の**リフォームローン等の適切な活用**。
 - ④住宅内事故の発生状況や**高齢者の身体的な事情や要望を考慮**した公的支援整備。
 - ⑤身体機能が低下した高齢者向けの**ケア付き住宅などの福祉サービス充実**。

- 【中国】
- ①政府は**主導的役割を發揮**して、関連部門に積極的に参加を呼び掛ける。
 - ②社会の力を導いて**広範に参与**させる。
 - ③地区(地方自治区)は**関連する政策を集合**させたものとする。
 - ④高齢者機関のサービスレベルを高くし、社会に対して**養老の考え方を提唱**する。
 - ⑤家庭内での高齢者養護では、**社会資源をサービスの内容に動員**する様広く開拓する。
 - ⑥サービスを提供する**志願者を募る**。



中国と日本の人口ピラミッド



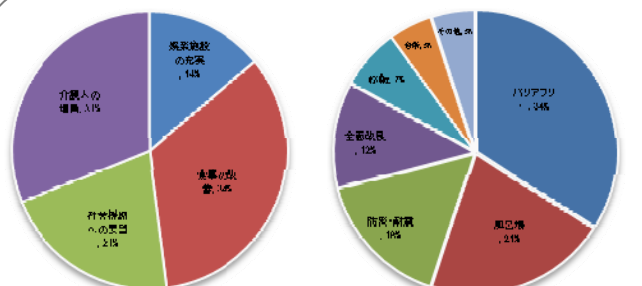
卒論の構成

高齡者住居環境・安全性に関するアンケート調査

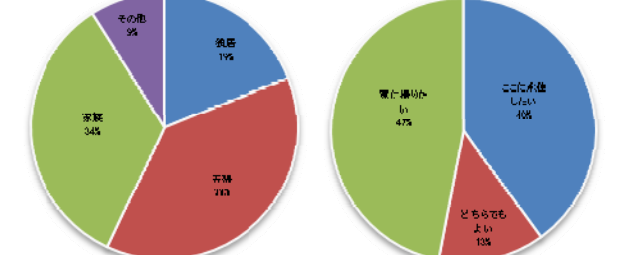
中国兰州市康乐老年公寓同巻調査表

質問	回答
1. 住居環境に関する満足度はどの程度ですか？	A. 非常に満足 B. 満足 C. 普通 D. 不満 E. 非常に不満
2. 住居環境改善のためにどのような対策を望みますか？	A. 転倒予防 B. 照明の改善 C. 音響対策 D. 冷暖房の整備 E. その他
3. 住居環境の安全性に関する満足度はどの程度ですか？	A. 非常に満足 B. 満足 C. 普通 D. 不満 E. 非常に不満
4. 住居環境の安全性を高めるためにどのような対策を望みますか？	A. 地震対策 B. 防火対策 C. 防犯対策 D. その他
5. 住居環境の安全性に関する不満の原因は何ですか？	A. 地震対策不足 B. 防火対策不足 C. 防犯対策不足 D. その他

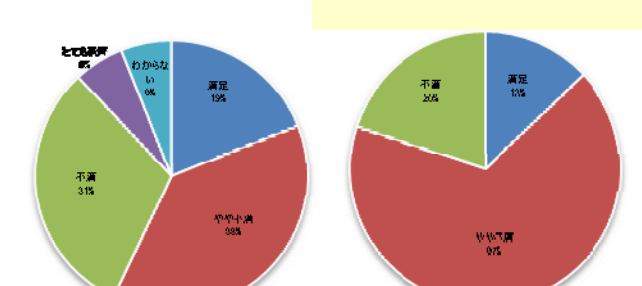
両国で行ったアンケート用紙



日本における現在の住宅に関する改善点 中国における現在の老人ホームへの要望



日本における対象者の同居状態 中国における現在の老人ホームへの残留希望



日本における現在の住宅への満足度 中国における現在の老人ホームの生活水準